

アラスカでの大型輸送機の墜落事故 横田基地で起きたら大惨事

7月28日、アメリカ、アラスカ州のエルメンドルフ空軍基地でC-17大型輸送機が離陸直後に墜落、乗員4人も死亡という事故が発生、アメリカでは大ニュースとなりました。C-17は横田基地に最も多く飛来する機種で、事故後も毎週飛来しています。しかし、7月の事故の原因については、操縦ミスなのか、機体の異状なのか未だに明らかにされていません。エルメンドルフ空軍基地はリチャードソン陸軍基地と共同運用されており、広大な森林に囲まれたところ。事故は北へ向かい離陸した直後、蛇行しながら、滑走路の中心から約3km離れた森林の中(wooded area...原文)に墜落しました。横田基地で同様の事故がおきれば、下図のように、周辺

は住宅密集地なので、大惨事になってしまいます。中原議員が一般質問でとりあげたところ、市長は「防衛省を通じて横田基地に確認したところ、横田基地の所属機ではないため、情報を把握していないとの回答であった」と答弁しました。

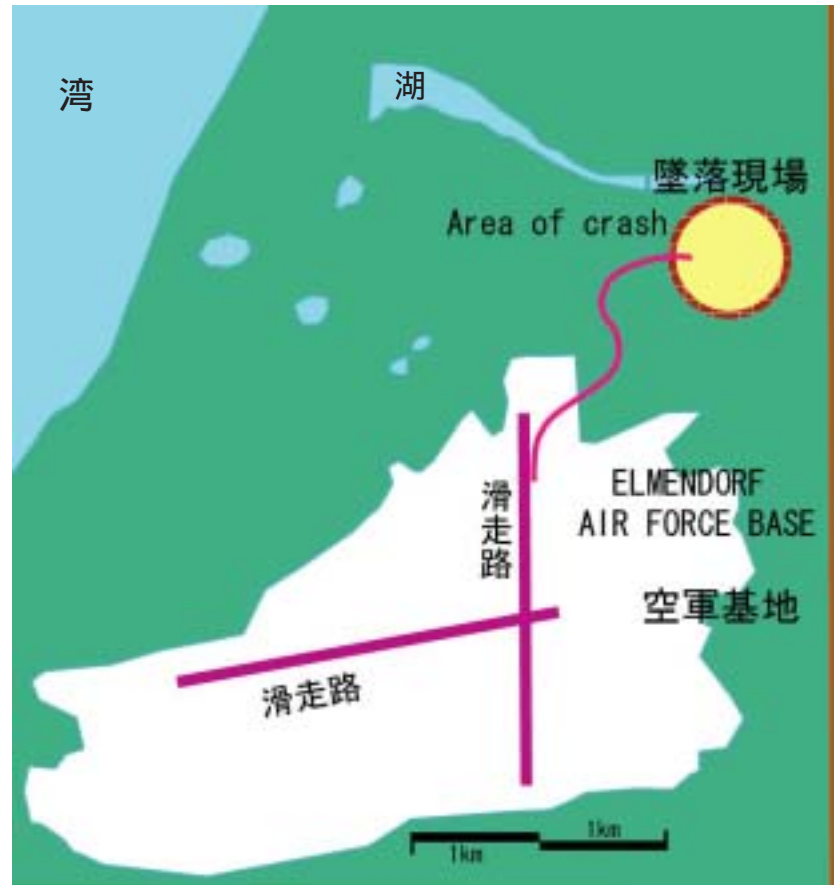
中原議員は「横田基地の常駐機の訓練も戦場を想定したものになり、爆音が大きくなった。市民は爆音に悩まされている。市長を先頭に横田基地の返還の運動を」と求めました。市長は「横田基地に対する私の考え方は、従来から整理・縮小・返還であり、そのスタンスは変わっていない」と答えました。



F/A-18C



墜落したC-17と一番違いの同型機...横田基地で



横田基地で同様の墜落事故が起きたら



一番大きい爆音はF/A-18

羽村市役所屋上に設置してある「航空機騒音測定器」の2009/4～2010/3の間の記録で、最大騒音レベルは104.1dBとなっており、日時は2010年3月12日17時17分とのことです。

ちょうどその時刻にF/A-18Cが4機、羽村市上空を旋回して横田基地に着陸しており、上写真は4機の中の1機(#400)で、17時17分に市内で撮影したものです。同機は本来、海軍リムア基地(カリフォルニア州)所属ですが、岩国の海兵隊基地に配備されていたものです。

瞬間的な騒音レベルはF/A-18が最大でしたが、市民にとっては、毎晩、C-130輸送機が住宅地を低く飛び訓練を行うことによる爆音で、テレビの音が聞こえなくなったり、会話がとぎれたり、団らんのひとつきを奪われ、迷惑を受けています。

横田基地所属のC-130輸送機は以前と違い、住宅地上空で急旋回、急降下、低空飛行を繰り返すなどしており、ミサイル攻撃に対応した訓練を行っているのではといわれています。